



## 院内採用薬品数と新規採用薬品数

医薬品を有効・安全に使用する為、科学的視点から評価し、必要な医薬品を選定できているか？を評価する指標です。

採用薬および新薬を定期評価する事によって、採用薬品数を適正に抑え、有効で安全かつ安価な医薬品の提供を実現します。

みどり病院では、半期毎の岐阜民医連県連薬事委員会で、当院での使用実績や患者への効果検証を元に疾患別・薬効群別採用薬の見直しを行っております。

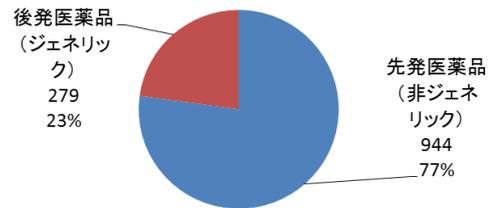
採用薬は毎年減少させておりますが、同規模の他病院と比較すると多い薬品数であり、更なる見直しが必要です。

### 採用薬品数と新規採用薬品数

新規採用薬品数	平均
新規採用薬品数	年間総計



### 院内採用薬におけるジェネリック割合 (2016年)



採用薬内の後発医薬品（ジェネリック）の採用割合は23%となっております。

後発医薬品（ジェネリック医薬品）は、先発医薬品と治療学的に同等であるものとして製造販売が承認され、一般的に研究開発に要する費用が低く抑えられることから、先発医薬品に比べて薬価が安くなっています。後発医薬品を普及させることは、患者負担の軽減につながります。

今後とも、薬剤効果・品質等を評価しながら導入を行ってまいります。